

鳥取県立図書館からの報告

(対象期間：令和3年12月～令和4年11月)

(報告者) 鳥取県立図書館

郷土資料課 安藤理恵

1. 資料展示

(1) 特別資料展示 (特別資料展示室における展示)

	期間	タイトル	入場者
令和3年度	12/10～12/27	特別資料展 鳥取県立図書館 新収蔵資料展	158人
令和4年度	8/1～8/30	「KAI・TAI—SHIN・SYO 一初公開！『解体新書』がやってきた！ —」	1250人

(2) ミニ展示・企画展示 (郷土資料室及び一般図書室の展示スペースを利用した展示)

	期間	タイトル
令和3年度	11/12～12/27	今年のプロスポーツはとっとりゆかりの選手が大活躍
	1/4～2/27	「令和3年度鳥取県文化功労賞」受賞者紹介展
	2/25～3/30	水木しげる先生生誕100年！
令和4年度	4/15～5/11	鳥取大火から70年～あの日のまちのすがた～
	5/13～6/8	愛鳥写真集～5月10日～16日は愛鳥週間～
	6/10～7/28	資料で見る“鳥取大丸”
	8/4～9/29	山陰を走る鉄道の世界
	9/1～9/29	9月12日はとっとり県民の日
	10/1～10/28	名和中学校のふるさと学習ポスター
	10/1～10/28	郷土学習ガイドを改訂！新たに麒麟獅子の学習ガイドができました！
11/2～12/7	没後30年を迎えた松本清張と山陰のゆかり	

(3) 他館を会場にした資料展

期間中実績なし

2. 講演会・行事

(1) 郷土文化講演会（開催予定）

「地域史研究と地域の活性化」（令和4年2月23日（水・祝）に開催予定だった郷土文化講演会は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、今年度開催を予定している）

日 時：未定

講 師：坂本 敬司（さかもと けいじ）氏 元鳥取県立博物館学芸員、元鳥取県史編さん室長

開催内容：藩政資料や地域の歴史資料には鳥取県のような情報が記録されている。今日、これら地域資料に記された情報は、教育、商業、地域おこしなど、分野を越え活用される機会が増えている。地域資料を利用し、地域に根ざした事象にまつわる発見を通じて、鳥取県の活性化の一助となり、地域資料は県民が活用できるものであることを発信する講演会。

(2) 鳥取文学講座（開催）

「古文書に親しむ講座・としょかんでくずし字を読んでみよう」

日 時：第1回7月24日（日）午後1時30分～3時30分 「くずし字ってなに？」

日 時：第2回9月4日（日）午後1時30分～3時30分 「翻刻してみよう」

講 師：講師：入江宜明（いりえよしあき）氏 元若桜町立わかさ生涯学習情報館長、郷土史家

開催内容：全2回の講座で、くずし字の基礎を学び、古文書に親しむ講座。

(3) 鳥取県に伝わる昔話を聞く会

日 時：毎月第4土曜日 午後2時から30分程度

語り手：中嶋須美子氏

3. 研修・講座

(1) 新任図書館員を対象とした実務研修会

県内図書館の新任職員等を対象にした研修会。「本の正しい扱い方と郷土資料の活用法」を講義。

(2) 図書館職員向け図書館業務専門講座+α

- ・県立図書館及び市町村立図書館職員に向けて「くずし字」についての講義を行った。
- ・継続して図書館スキルアップ古文書講座を10月～3月の第3金曜日に開催予定。
- ・鳥取市立中央図書館と倉吉市立図書館の職員研修会を実施。

(3) 行政職員向け研修「図書館に学ぶ！1ランク上の情報収集講座」（令和5年1月27日開催予定）

鳥取県人材開発センターとの共催企画。県及び県内自治体職員の研修講座として「図書館を活用した情報収集講座」を開催。図書やインターネットを活用した情報収集、郷土資料の活用法についての講義を行う予定でした。平成18年度より継続開催。

(4) そのほか講座

令和4年3月に智頭町民向けの講座を実施。令和4年11月には「本の学校文化祭」にて境港市民向けの講座を学芸員が実施。地元の偉人についての紹介や調べ方の案内を行った。

4. 外部との連携

本庁知事部局の進める政策・イベント関連など、互恵関係のある展示を開催しているほか、利用者主催の展示の開催を行った。

5. 統計および資料保存の取り組み等

(1) 統計

利用状況（郷土資料）

	貸出冊数（一日あたり）	レファレンス
令和3年度	6,266 冊（19.3 冊）	3,709 件
令和2年度	6,284 冊（19.3 冊）	3,175 件
令和元年度	6,846 冊（24.6 冊）	3,853 件

蔵書冊数（郷土資料）

令和3年度	151,710 冊（全蔵書の 12.3%）
令和2年度	149,415 冊（全蔵書の 12.3%）
令和元年度	146,643 冊（全蔵書の 12.4%）

※令和3年度 2,295 冊増加

（購入：444 冊 寄贈：1,783 冊 生産・その他：71 冊 除籍：3 冊）

(2) 郷土関係情報の収集およびデータ入力

① 図書、逐次刊行物等の収集

② 郷土関係情報の入力・発信

- ・「鳥取県郷土人物文献データベース」の新規文献情報の入力
- ・図書、雑誌、研究報告書等の目次・論文名の入力
- ・ホームページの更新（展示・行事の広報、コンテンツの更新）

③ 郷土関係情報の収集

- ・新聞記事のスクラップ（地元紙・全国紙より鳥取県に関する記事をスクラップ）

(3) 資料のデジタル化

- ・平成29年度に策定した「総合的なデジタル化計画」に基づき、平成30年度から令和4年度の5か年計画で、希少性の高い貴重資料や劣化の進行が著しい資料などのデジタル化を行いデジタルコンテンツを公開している。今後も継続してデジタル化資料を増やす予定であり、再度5か年計画で要求を予定している。
- ・今後は、新日本海新聞社と記事見出しをとりデジタルコレクションで検索できるようになるよう協議を進めている。
- ・令和3年3月に「とっとりデジタルコレクション」の公開を行った。1年間（令和3年3月から令和4年3月）のアクセス件数が約22万件となり、想定を上回る利用となっている。
- ・ジャパンサーチや国立国会図書館サーチとの連携で全国の機関がデジタル化した類似資料を横断的に検索することが可能となったことにより、とっとりデジタルコレクションにアクセスしてもらえる機会が増加した。
- ・地方出版物（郷土資料）の電子書籍化を促進し、当館の所蔵として利用できる環境を整備するため、県内の出版社等と一緒に勉強を進めている。
- ・鳥取県に伝わる昔話を聞く会は「とっとりデジタルコレクション」内（YouTube 経由）で視聴可能となった。

6. 新型コロナウイルスに関する対応

- ・図書館職員向けの専門講座や、利用者向けの講座はオンラインでも参加が可能な講座が増加している。
- ・県独自基準の警報発令をもとに、イベント催行やDVD視聴およびインターネット端末などの利用に制限を設けている。